

校内研修計画

山梨市立笛川中学校

1. 学校課題

本校は山間部に位置するため豊かな自然に恵まれており、素朴でまじめであり、素直な生徒が多い。広範囲の学区によるスクールバスでの通学などといった活動時間の制約の中で、学習活動をはじめ、学校行事や生徒会活動、部活動などに対して意欲的に取り組んでいる。また、家庭や地域社会とのつながりも密接で、生徒指導上の問題も少なく、望ましい教育環境である。しかし、その一方で、学級や学年・学校といった集団の一員として、積極的に集団の向上のために働きかけ、努力する点についてやや物足りない部分もある。また、指示やアドバイスを素直に受け入れ、生活を向上させていく柔軟性も持っているが、主体的に自らの課題を発見しそれを粘り強く追求したり、自分の考えを発表し、表現したりすることが苦手な生徒が多い。

過去の研究の中でもこの課題についての取り組みは重ねられており、一定の成果が上がってきている。しかし、生徒は一人ひとり違った個性をもっており、指導内容や方法も状況に応じて対応する必要がある。

2. 研究主題

主体的に学習に取り組む生徒の育成
～ 言語活動の充実を通して ～

3. 主題設定の理由

平成20年中央教育審議会答申において、言語は知的活動（論理や思考）の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であるとされている。このため、各教科等において言語活動を充実する際には、このような言語の果たす役割を踏まえた指導を行うことが大切である。また、言語活動が単に活動することに終始することのないよう、各教科等のねらいを言語活動を通じて実現するために意図的、計画的に指導することが重要であるとしている。このような観点から、言語活動を充実させることで、学校での学習がより深まると考え、本主題を設定し、平成23年度から取り組みを始め、今年度も継続することとした。本年度は、今までの研究の成果と課題を踏まえ、各教科において指導法の改善や教材・教具の工夫等を行い、生徒一人ひとりの学習意欲を高めることによって主体的に学習に取り組む生徒の育成を目指し、研究を深めていきたい。

4. 研究の具体的内容と方法

- (1) 思考力・判断力・表現力等の充実を通して、表現力をはぐくむための言語活動の充実
- (2) 確かな学力向上を目指し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着を図るための学習習慣の確立（家庭学習）
- (3) 学習効果を高める生活習慣、学習規律の確立

H 2 6 年 度 年 間 校 内 研 修 計 画

研究主任 武井 晴彦

研 究 内 容	教科領域等	担 当 者	時 期	
研究内容の確認 年間研修計画の作成 具体的取り組みについて①	全 体	研究推進	4月 9日 5月 2日	1 2
具体的取り組みについて② 家庭学習の取り組みについて（検討） 生活・アンケート提案	全 体 学 年	研究推進	5月14日	3
評価（成績）について	全 体	全体・学年	5月 28日	4
生活・アンケートについて（検証）	学 年	担当学年	6月18日	5
第1回HQUについて（検証①）	学 年	学年	6月25日	6
第1回HQUについて（検証②）	全 体	全体	7月 2日	7
家庭学習の取り組みの検証(1学期) 言語活動中間報告（夏休みの課題）	学 年	学年	7月 9日	8
教育課程の報告について	全 体	各担当	9月17日	9
家庭学習の取り組みについて （1学期の反省を踏まえて確認）	学 年	学年	9月24日	10
授業案検討	全 体	全体	10月15日	11
第1回HQUを踏まえた実践確認	全 体	全体	10月29日	12
授業研究	全 体	全体	11月 5日	13
第2回HQUについて（検証）	学 年	学年	12月 3日	14
第2回HQUについて（成果と課題） 生活・アンケート提案（冬休み明け実施）	全 体	教科	12月10日	15
研究紀要の作成について	全 体	研究推進	1月 28日	16
今年度の成果と課題	全 体	研究推進	2月 25日	17
次年度の研究について	全 体	研究推進	3月 3日	18